



札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	看護学生を対象とした認定看護師・専門看護師の資格取得に関する公開セミナーの評価
Author(s)	牧野, 夏子; 門間, 正子; 内田, 裕美; 神田, 直樹; 田口, 裕紀子; 春名, 純平; 皆川, ゆり子; 城丸, 瑞恵
Citation	札幌保健科学雑誌, 第 6 号: 42-46
Issue Date	2017 年
DOI	10.15114/sjhs.6.42
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/6989
Type	Technical Report
Additional Information	
File Information	n2186621X642.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報告

看護学生を対象とした認定看護師・専門看護師の 資格取得に関する公開セミナーの評価

牧野夏子¹⁾、門間正子²⁾、内田裕美³⁾、神田直樹⁴⁾、田口裕紀子³⁾、
春名純平³⁾、皆川ゆり子⁵⁾、城丸瑞恵¹⁾

- 1) 札幌医科大学保健医療学部看護学科
- 2) 日本医療大学保健医療学部看護学科
- 3) 札幌医科大学附属病院
- 4) 北海道医療大学看護福祉学部看護学科
- 5) 北海道立子ども総合医療・療育センター

本研究の目的は、公開セミナー「認定看護師・専門看護師のシゴト-資格取得から実際の活動-」開催の試みを参加者への質問紙調査の結果を参考に評価することである。2013～2015年度、年1回、全3回開催したセミナーの参加学生延べ42人にセミナー参加への参加理由、認定・専門看護師への認識の変化等の質問紙調査を実施した。分析は記述統計および自由記述は意味内容の類似性からカテゴリ化した。結果、39件の有効回答を得た。セミナー参加理由は「認定・専門看護師の資格取得方法を知りたかった」が最も多く、セミナー参加による認定・専門看護師への認識は、8割以上が「理解できた」、「関心がもてた」と回答した。自由記述から【認定看護師・専門看護師の違いや資格取得、活動の実際の理解の深まり】【実際に認定看護師・専門看護師の話聞く貴重な機会】等のカテゴリが抽出された。以上より、本セミナーは有資格者から直接話を聞く貴重な機会となり、認定・専門看護師への認識が肯定的に変化したことから、学生のキャリア発達支援に有効であったことが示唆された。

キーワード：看護学生 認定看護師 専門看護師 公開セミナー

Evaluation of the Open Seminar for Nursing Students on the Subject of Certified Nurse and Certified Nurse Specialist Qualifications

Natsuko MAKINO¹⁾, Masako MOMMA²⁾, Hiromi UCHIDA³⁾, Naoki KANDA⁴⁾,
Yukiko TAGUCHI³⁾, Junpei HARUNA³⁾, Yuriko MINAGAWA⁵⁾, Mizue SHIROMARU¹⁾

- 1) Nursing Department, School of Health Sciences, Sapporo Medical University
- 2) Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Japan Health Care College
- 3) Sapporo Medical University Hospital
- 4) Health Sciences University of Hokkaido, School of Nursing & Social Services, Department of Adult Health Nursing
- 5) Hokkaido medical center for child health and rehabilitation

Between 2013 and 2015 (both fiscal years), the authors' team organized an annual open seminar "The work of certified nurses (CN) and certified nurse specialists (CNS): certification process and practice" to help nursing students consider their career path, and 42 students in total attended. The purpose of this paper is to evaluate this seminar from feedback given by the attendants on a questionnaire survey which asked, among other things, the reason for attending the seminar and how their perception of CN/CNS changed. Quantitative data was analyzed using descriptive statistics and answers to open ended questions were categorized by analogy. Among 39 valid responses, the most popular reason for attending was "to learn how to qualify as CN/CNS". Over 80% said they had gained an understanding of, and became interested in, these qualifications. Categories extracted from free description included "insight into the difference between CN and CNS, qualification requirements and actual work" and "valuable opportunity to listen to the stories of CN and CNS". These results suggest that the seminar was an excellent career development support tool, in that it provided nursing students with a rare opportunity to interact with practicing CN/CNS and improved their understanding of the qualifications.

Key words: nursing students, certified nurse, certified nurse specialist, open seminar

Sapporo J. Health Sci. 6:42-46(2017)
DOI:10.15114/sjhs. 6. 42

受付日：2016年8月2日 受理日：2016年11月7日

<連絡先> 牧野夏子：〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 札幌医科大学保健医療学部看護学科

I. はじめに

昨今、看護学生のキャリア教育の重要性が謳われており、看護セミナーの開催¹⁾、就職先選択に関する研究²⁾³⁾、就業後の動向調査⁴⁾、キャリアデザインに関する調査⁵⁾等が報告されている。

研究者らは、看護学生を対象にキャリア発達に関する実態調査⁶⁾を行い看護学生は認定・専門看護師への関心が高いこと、資格取得の情報を必要としている結果を得た。そこで、看護学生のキャリア発達支援を目的とした活動を検討し、第一段階として認定・専門看護師の資格取得に関する情報提供の場を設けることを試みた。

今回、公開セミナー「認定看護師・専門看護師のシゴト-資格取得から実際の活動-」(以下、セミナーと略す)の開催を試み、参加者への質問紙調査結果を参考に評価した結果、看護学生に対するキャリア発達支援に示唆を得たため報告する。

II. セミナーの概要

セミナーはA大学の看護学生を対象に2013年～2015年度に年1回、全3回に渡り開催した。開催に際し同大学のホームページおよび学生掲示板を用いて周知した。参加は自由参加であり無料で設定した。

内容は、1) 認定・専門看護師の違いや特徴、2) 認定・専門看護師を目指した動機や活動の実際で構成し45分～60分で設定した(表1)。各年度の講師は、看護学生の希望とA大学大学院教育課程の専攻を考慮し研究者間で検討を行い決定した。講師は所属施設の看護部長の許可を得て依頼した。

III. 研究方法

2014年2月、2015年2月、同年11月に開催したセミナーに参加した看護学生延べ42人(2013年度:30人、2014年度:10人、2015年度:2人)を対象に、セミナー後に自記式記名式質問紙調査を実施した。対象への説明および質問紙の配布は、看護学生への心理的な配慮としてA大学の教職員以外の研究者が行い、回収は封筒に入れ閉封し回収箱に投函するよう依頼した。

調査内容は、1) 基本的属性、2) 希望する医療職種、3) 認定・専門看護師への希望の有無、4) セミナーへの参加理由、5) セミナー参加による認定・専門看護師への認識の変化、6) 感想で構成した。

1) 基本的属性は学年および本セミナーへの参加回数を選択し、2) 希望する医療職種は、「看護師」「保健師」「助産師」「まだ決めていない」の4項目から1項目のみ選択とした。3) 認定・専門看護師への希望の有無は、「認定看護師を目指している」「専門看護師を目指している」「認定看護師か専門看護師を目指している」「認定看護師も専門看護師も目指していない」「まだ決めていない」の5項目から複数選択を可能とした。4) セミナーへの参加理由は、「認定看護師や専門看護師に興味があったから」「認定看護師や専門看護師として働いている人の話を聞いたかったから」「認定看護師や専門看護師の資格をどのように取得するのか知りたかったから」「認定看護師や専門看護師が実際にどのような仕事をしているのか知りたかったから」「将来の選択肢を選ぶための情報になると思ったから」の5項目から複数選択を可能とした。5) セミナー参加による認定・専門看護師への認識の変化は、セミナーの参加前より認定・専門看護師それぞれの役割を「よく理解できた」「や

表1. 「認定看護師・専門看護師のシゴト-資格取得から実践の活動-」の内容

開催時期	開催時間	発表内容	講師
2013年度	60分	認定看護師、専門看護師の違いや特徴	がん看護専門看護師 がん性疼痛看護認定看護師
		認定看護師取得の動機や活動の実際	手術看護認定看護師 救急看護認定看護師
		専門看護師を目指した動機や活動の実際 専門看護師取得の動機や活動の実際	小児看護専門看護師教育課程在學生 急性・重症患者看護専門看護師
2014年度	45分	認定看護師、専門看護師の違いや特徴	急性・重症患者看護専門看護師教育課程在學生
		認定看護師取得の動機や活動の実際	手術看護認定看護師 緩和ケア認定看護師
		専門看護師を目指した動機や活動の実際	小児看護専門看護師教育課程修了生 急性・重症患者看護専門看護師教育課程在學生
2015年度	45分	認定看護師、専門看護師の違いや特徴	急性・重症患者看護専門看護師教育課程修了生
		専門看護師を目指した動機や活動の実際	小児看護専門看護師 皮膚・排泄ケア認定看護師
		認定看護師取得の動機や活動の実際	救急看護認定看護師

や理解できた」「どちらとも言えない」「あまり理解できなかった」「全く理解できなかった」の5段階から、関心の有無を「とても関心をもてた」「やや関心をもてた」「どちらとも言えない」「あまり関心をもてなかった」「全く関心をもてなかった」の5段階から、志望の有無を「とてもなりたいたい」「ややなりたいたい」「どちらとも言えない」「あまりなりたいたくない」「全くなりたいたくない」の5段階からそれぞれ一つのみ選択とした。6) 感想は自由記述を求めた。

分析は、数値化された量的データは記述統計を行い全体を概観した。自由記述で得られたデータは対象者がセミナーを通して感じ、考えたことを表す記述を抽出し、記述内容を要約した。要約したデータを意味内容の類似性に基づいて分類し、サブカテゴリ、カテゴリを生成した。分析の全過程において共同研究者間で検討を重ねた。

倫理的配慮として、研究者が所属する施設の倫理委員会の承認を得た。対象者に文書で研究目的、研究参加の自由意思、匿名性の保証、データの取り扱い、結果の公表方法、協力の可否は成績や授業に一切影響しないことを説明し、質問紙の提出をもって研究協力同意とした。

IV. 結 果

質問紙を延べ42件（回収率100.0%）回収した。本調査ではセミナーへの初回参加時のデータを有効回答としたた

め、複数回参加した学生のデータは初回参加時のデータを調査対象とした。そのため、39件（有効回答率92.9%）を対象とした。

対象者の学年は、1年生が5人（12.8%）、2年生が14人（35.9%）、3年生が5人（12.8%）、4年生が14人（35.9%）、無回答が1人（2.6%）であり、希望する医療職種は「看護師」が31人（79.5%）、「保健師」が4人（10.3%）、「助産師」が2人（5.1%）、「まだ決めていない」が2人（5.1%）であった。認定・専門看護師への希望の有無は、「認定看護師を目指している」4人（10.3%）、「専門看護師を目指している」3人（7.7%）、「認定看護師か専門看護師を目指している」14人（35.9%）、「まだ決めていない」18人（46.2%）であった。セミナーへの参加理由は、「認定看護師や専門看護師に興味があったから」6人（15.4%）、「認定看護師や専門看護師として働いている人の話を聞きたかったから」17人（43.6%）、「認定看護師や専門看護師の資格をどのように取得するのか知りたかったから」26人（66.7%）、「認定看護師や専門看護師が実際にどのような仕事をしているのか知りたかったから」21人（53.8%）、「将来の選択肢を選ぶための情報になると思ったから」19人（48.7%）であった。

セミナー参加による認定・専門看護師への認識の変化は表2に示した。認定看護師は、セミナー参加前より役割について38人（97.4%）が「よく理解できた」「やや理解できた」、関心の有無について33人（84.6%）が「とても関心をもて

表2-1. セミナー参加による認定看護師への認識の変化

		認定看護師														
		役割の理解					関心の有無					志望の有無				
		よく理解できた	やや理解できた	どちらとも言えない	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	とても関心をもてた	やや関心をもてた	どちらとも言えない	あまり関心をもてなかった	全く関心をもてなかった	とてもなりたいたい	ややなりたいたい	どちらとも言えない	あまりなりたいたくない	全くなりたいたくない
対象全体 ^a	(n=39)	23(59.0)	15(38.4)	1(2.6)	0(0.0)	0(0.0)	19(48.7)	14(35.9)	6(15.4)	0(0.0)	0(0.0)	11(28.2)	16(41.0)	12(30.8)	0(0.0)	0(0.0)
内訳:																
1年生	(n=5)	3	2	0	0	0	3	1	1	0	0	2	2	1	0	0
2年生	(n=14)	11	3	0	0	0	12	1	1	0	0	4	6	4	0	0
3年生	(n=5)	1	4	0	0	0	2	3	0	0	0	3	2	0	0	0
4年生	(n=14)	7	6	1	0	0	2	9	3	0	0	1	6	7	0	0
無回答	(n=1)	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0

^a表中の実数は人数を（ ）内は%を示す

表2-2. セミナー参加による専門看護師への認識の変化

		専門看護師														
		役割の理解					関心の有無					志望の有無				
		よく理解できた	やや理解できた	どちらとも言えない	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	とても関心をもてた	やや関心をもてた	どちらとも言えない	あまり関心をもてなかった	全く関心をもてなかった	とてもなりたいたい	ややなりたいたい	どちらとも言えない	あまりなりたいたくない	全くなりたいたくない
対象全体 ^a	(n=39)	22(56.4)	16(41.0)	1(2.6)	0(0.0)	0(0.0)	18(46.2)	19(48.7)	2(5.1)	0(0.0)	0(0.0)	9(23.1)	20(51.3)	10(25.6)	0(0.0)	0(0.0)
内訳:																
1年生	(n=5)	2	3	0	0	0	3	2	0	0	0	2	3	0	0	0
2年生	(n=14)	11	3	0	0	0	10	4	0	0	0	5	5	4	0	0
3年生	(n=5)	1	4	0	0	0	1	4	0	0	0	1	4	0	0	0
4年生	(n=14)	7	6	1	0	0	3	9	2	0	0	1	8	5	0	0
無回答	(n=1)	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0

^a表中の実数は人数を（ ）内は%を示す

た「やや関心もてた」、志望の有無について27人(69.2%)が「とてもなりたい」「ややなりたい」と回答した。専門看護師は、セミナー参加前より役割について38人(97.4%)が「よく理解できた」「やや理解できた」、関心の有無について37人(94.9%)が「とても関心もてた」「やや関心もてた」、志望の有無について29人(74.4%)が「とてもなりたい」「ややなりたい」と回答した。

セミナーに参加した感想は表3に示すように【認定看護師・専門看護師の違いや資格取得、活動の実際の理解の深まり】【将来について考える機会・きっかけ】【実際に認定看護師・専門看護師の話を聞く貴重な機会】の3カテゴリに分類された(カテゴリは【 】、サブカテゴリを〔 〕で示す)。

【認定看護師・専門看護師の違いや資格取得、活動の実際の理解の深まり】はセミナーを通して認定・専門看護師の違いや資格取得方法、実際の活動について理解が深まったことを示しており、〔認定看護師や専門看護師の違いについて知ることができた〕などの3サブカテゴリから構成された。

【将来について考える機会・きっかけ】はセミナーを通して自らの将来について考える機会となったことを示しており、〔認定看護師や専門看護師への興味が湧き志望のきっかけになった〕などの3サブカテゴリから構成された。

【実際に認定看護師・専門看護師の話を聞く貴重な機会】は対象者がセミナーを貴重な機会として捉えていたことが示されており、〔有資格者のリアルな声を聞く貴重な時間だった〕などの4サブカテゴリから構成された。

V. 考 察

対象者の背景をみると、認定・専門看護師を目指している学生が半数以上を占めていた。対象者は授業で認定・専門看護師と接する機会はあるものの、資格取得方法や実際の活動について聞く機会は少なかったものと推察する。原ら³⁾は看護学生のキャリア志向はスペシャリスト志向が多いことを報告しており、セミナー開催前より認定・専門看護師に関心が高かった対象者のニーズとセミナーの開催目的は相違がなかったものとする。

セミナー参加による認定・専門看護師への認識の変化および感想から、対象者は有資格者の発表を通して認定・専門看護師の役割の理解や関心が高まり志望に繋がっていたことが示された。更に、認定・専門看護師の違いについて理解を深め、自身の将来について考えるきっかけとなっていた。看護学生が現職者から生の声を聞くことは看護職の役割や発展の機会について理解を深める効果⁴⁾やロールモデルの獲得の機会、学習意欲の向上などの効果がある⁷⁾と

表3. セミナーに参加した感想

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的な記載内容の要約
認定看護師・専門看護師の違いや資格取得、活動の実際の理解の深まり	認定看護師や専門看護師の違いについて知ることができた	<ul style="list-style-type: none"> 認定看護師や専門看護師の違いなどが曖昧だったので今回のセミナーを開けてとても参考になった。 認定看護師と専門看護師の違いについて知ることができて良かった。
	認定看護師や専門看護師の資格取得の背景や動機について理解することができた	<ul style="list-style-type: none"> 専門看護師や認定看護師について深く知れただけではなく、資格取得の背景も知ることができた。 認定看護師、専門看護師にどのようなものか、なぜ目指そうと思ったのか、大学院と学業との両立について具体的に理解できる機会となった。 参加前より資格取得について理解や興味が深まった。
	認定看護師や専門看護師の活動や取組について理解することができた	<ul style="list-style-type: none"> 実際の認定看護師や専門看護師の取り組みや活動内容を知ることができて良かった。 認定看護師、専門看護師の様々な分野で活躍する様子まで知ることができて良かった。
将来について考える機会・きっかけ	セミナーを通して将来について考える機会になった	<ul style="list-style-type: none"> セミナーを機会に今後の進路について考え直していきたい。 詳しい資格取得の方法から実際に聞くことができ、改めて自分のキャリアや人生設計について考えることができた。 今回のセミナーに参加し自分の今後の働き方をもう一度考えてみようと思う。
	認定看護師や専門看護師への興味が湧き志望のきっかけになった	<ul style="list-style-type: none"> 専門看護師を視野に入れていたが講義を聞いて目指しているものの方向性や性格から考慮して認定看護師も考えようと思った。 認定看護師として現場で働きたいと思った。
	今後の選択肢を選ぶための情報収集の機会となった	<ul style="list-style-type: none"> 現場で働く方の意見を聞くことで将来を考えることの大切さを実感し、自分でも調べていきたいと思った。 もう少し情報を集めてじっくり考えようと思う。
実際に認定看護師・専門看護師の話を聞く貴重な機会	有資格者のリアルな声を聞く貴重な時間だった	<ul style="list-style-type: none"> 実際の方の声を聴くことができて参考になり良かった。 資格を持つ看護師の話を聞ける機会は少ないので貴重な時間だった。
	様々な分野の専門職の話を聞き視野が広がった	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野の専門職の方の話を聞き視点が広がった。
	講話を聞いて自分のモチベーションが上がった	<ul style="list-style-type: none"> 実際に働いている方からお話しを聞き知識が増えモチベーションもあがったので良かった。
	関心分野の専門看護師の講話はためになった	<ul style="list-style-type: none"> 将来は小児看護専門看護師も考えているのでセミナーはとてもためになった。

報告されている。本研究でも先行研究と同様に、臨床現場で活動している有資格者の声を直接聞く試みは学生のキャリア発達支援に効果的だったものとする。

セミナー参加による認定・専門看護師への認識の変化について学年間の差をみると、明らかな相違は認めなかった。研究者らの調査結果⁶⁾では入学当初は認定・専門看護師への関心が高かったが異なる結果であった。今後はセミナー参加人数を増やし学年間による差異について検討することが課題である。

参加人数が周知し得た人数よりも少なかった点については、セミナー開催時期が学生の授業や実習時期に影響を受けたものと推察される。このことから、自由参加でセミナーを開催する際は学生の授業や実習等の学事暦を考慮し、学生が参加しやすいよう企画する必要性が示唆された。

本研究の限界として、対象者が少なく偏りがあり、得られた結果が一般的な看護学生へのキャリア支援への効果の検証とは言い切れない。また、セミナーを3回開催したが開催時期、発表者の属性が様々であり、結果に影響した可能性は否定できない。

謝 辞

本研究にご協力いただいた対象者の皆様、セミナーにご協力頂いた講師の方々に心より感謝致します。

本研究の一部は第26回日本看護学教育学会学術集会において発表した。

文 献

- 1) 佐藤富美子, 浦山美輪, 早川ひと美, 他: 看護GP事業教育指導者育成プログラム「看護学生を対象とした看護セミナー」の評価. 東北大学保健学科紀要23(1): 17-25, 2014
- 2) 大井千鶴, 舟島なをみ, 亀岡智美: 看護基礎教育課程に在籍する学生の就職先選択に関する研究-病院に1年以上就業を継続できた看護師を対象として-. 看護教育学研究18(1): 7-20, 2009
- 3) 原玲子, 竹本由香里: 看護師として病院に就職することを決定した看護学生のキャリア志向と職場選択に関する研究. 宮城大学看護学部紀要14(1): 69-79, 2011
- 4) 大井千鶴, 藤尾麻衣子, 松村ちづか, 他: 卒業生動向調査からもつ本学におけるキャリア形成支援の検討第2報-今後の就業継続状況と大学院進学の観点から-. 武蔵野大学看護学部紀要8: 77-83, 2014
- 5) 山内栄子, 松本葉子, 杉本吉美, 他: 看護大学の学生における卒業前のキャリアデザイン. 日本看護学教育学会誌18(1): 43-53, 2008
- 6) 田口裕紀子, 門間正子, 皆川ゆり子, 他: 看護系大学生のキャリア発達に関する実態調査-認定看護師、専

門看護師、修士・博士に対する認識と資格取得に必要と考える事項および情報源-. 札幌保健科学雑誌2: 11-18, 2013

- 7) 服部直子, 野網淳子: 看護基礎教育におけるキャリア教育の必要性に関する一考察-卒業生へのインタビューによるモデリング学習からの学びの分析-. 第41回日本看護学会論文集 看護教育: 100-103, 2010

